

Factors Associated With the Postoperative Status of Donor Patients for Living Donor Liver Transplantation

若田, 好史

<https://hdl.handle.net/2324/1398535>

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名： 若 田 好 史

論文題名： Factors Associated With the Postoperative Status of Donor Patients
for Living Donor Liver Transplantation

(生体肝移植ドナー患者の術後状態に関連する要因の検討)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

目的：死体肝移植は 1960 年代より末期肝不全患者に対する救命的外科的手技として確立されてきた。一方近年になって生体肝移植の実施数が増加の傾向にある。しかしながら生体肝移植ドナー患者における術後の健康アウトカムについての知見は乏しい。そこで我々は患者属性、手術属性などの諸要因と術後状態の関連を検討した。

方法：当院では電子クリニカルパス（以下パス）を使用している、これは診療プロセスチャートであり、その中で入院中の達成すべき複数の患者状態をアウトカムとして定義しており、達成されない場合はバリエーションとして記録される。この電子パスシステムを用いれば臨床経過に関する患者状態の客観的データを収集することが可能となる。そこで我々は当院のパスデータを用いて多重ロジスティック回帰分析による、生体肝移植ドナー患者の術後状態に関連する要因の検討を行った。

結果：今回検討した要因の中で手術時間が 5 種類の、また出血量が 2 種類の術後患者状態に有意な関連が認められた。またその他 4 つの要因（性別、体表面積、手術の緊急性、残肝率）がそれぞれ 1 種類の術後患者状態に有意な関連が認められた。

結論：本研究における知見は生体肝移植ドナー患者の術後状態の改善につながる可能性がある。

